



山形県感染症発生動向調査

平成28年第31週(8月1日～8月7日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/
 2016年8月9日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第30週	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	第30週	第31週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	92 0.02	1 0.02		▼	1 0.05		▼										13929
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	835 0.26	8 0.27	17 0.57	▲	2 0.15	3 0.23	△				6 1.00	14 2.33	▲				76
咽頭結膜熱	1479 0.47	13 0.43	18 0.60	△	8 0.62	7 0.54	▼	1 0.33	1 0.33		1 0.17	4 0.67	△	3 0.38	6 0.75	△	594
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	5581 1.77	87 2.90	86 2.87	▼	59 4.54	52 4.00	▼	2 0.67		▼	23 3.83	25 4.17	△	3 0.38	9 1.13	△	5008
感染性胃腸炎	11793 3.73	78 2.60	88 2.93	△	44 3.38	54 4.15	△	4 1.33	1 0.33	▼	20 3.33	17 2.83	▼	10 1.25	16 2.00	△	6273
水痘	983 0.31	12 0.40	4 0.13	▼	4 0.31		▼				2 0.33	2 0.33		6 0.75	2 0.25	▼	360
手足口病	2246 0.71	23 0.77	23 0.77		22 1.69	16 1.23	▼				1 0.17	6 1.00	△		1 0.13	△	91
伝染性紅斑	889 0.28	22 0.73	9 0.30	▼	12 0.92	4 0.31	▼				3 0.50	2 0.33	▼	7 0.88	3 0.38	▼	1427
突発性発しん	1675 0.53	25 0.83	25 0.83		8 0.62	4 0.31	▼	3 1.00	2 0.67	▼	10 1.67	12 2.00	▲	4 0.50	7 0.88	△	614
百日咳	90 0.03																13
ヘルパンギーナ	12157 3.85	180 6.00	420 14.00	▲	39 3.00	91 7.00	▲		2 0.67	△	120 20.00	260 43.33	▲	21 2.63	67 8.38	▲	760
流行性耳下腺炎	4128 1.31	40 1.33	37 1.23	▼	7 0.54	7 0.54		7 2.33	4 1.33	▼	25 4.17	25 4.17		1 0.13	1 0.13		1959
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	6 0.01																
流行性角結膜炎	582 0.84	3 0.38	6 0.75	▲	2 0.50		▼	1 1.00		▼					6 3.00	△	43
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	6 0.01																17
クラミジア肺炎	4 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	470 1	4 0.40	5 0.50	▲	2 0.50	1 0.25	▼				1 0.50		▼	1 0.33	4 1.33	△	69
細菌性髄膜炎	10 0.02		1 0.10	△											1 0.33	△	3
無菌性髄膜炎	35 0.07	1 0.10		▼										1 0.33		▼	6

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
腸管出血性大腸菌感染症	患者			1		型別:O26 VT1。
	無症状病原体保有者			1		型別:O26 VT1。
侵襲性肺炎球菌感染症	患者	2				肺炎球菌ワクチン接種歴:4回 1件、3回 1件。
	患者	2				※第29週、第30週追加報告分。 肺炎球菌ワクチン接種歴:4回 1件、不明 1件。
梅毒	患者	1				

<通信欄>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数が、第30週に県平均で警報レベル(開始基準6人、終息基準2人)を上回ったことから、県は8月3日に「ヘルパンギーナ警報」を発令した(参照:2ページのトピックス)。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ															
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症		4	7	1	5										17
咽頭結膜熱		3	8			3		2							2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			6	9	10	15	15	5	6	6	4	7			3
感染性胃腸炎	1	14	13	11	12	5	7	5	4	2	2	6	2	4	88
水痘					1	1	2								4
手足口病		2	11	6	2				1		1				23
伝染性紅斑				1	4	1		2	1						9
突発性発しん		10	14	1											25
百日咳															
ヘルパンギーナ	7	34	166	106	45	23	19	12		3		4		1	420
流行性耳下腺炎			2	2	5	12	8	1	3			3		1	37

<平成28年6月 月報>

2016年7月19日 作成

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～6月
	5月	6月	5月	6月	5月	6月	5月	6月	5月	6月	
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
性器クラミジア感染症	報告数 24	17	5	7	14	5	3	3	2	2	114
	定点当り 2.40	1.70	1.25	1.75	14.00	5.00	1.50	1.50	0.67	0.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数 9	5	3	2	2	1	2	2	2		35
	定点当り 0.90	0.50	0.75	0.50	2.00	1.00	1.00	1.00	0.67		
尖圭コンジローマ	報告数 3	3	3	3							18
	定点当り 0.30	0.30	0.75	0.75							
淋菌感染症	報告数 5	2	1				2		2	2	11
	定点当り 0.50	0.20	0.25				1.00		0.67	0.67	
基準定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)		
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数 4	5					1		3	5	38
	定点当り 0.40	0.50					0.50		1.00	1.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数 16	17	5	9	1	2	3	3	7	3	111
	定点当り 1.60	1.70	1.25	2.25	1.00	2.00	1.50	1.50	2.33	1.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数										
	定点当り										

<トピックス>

【ヘルパンギーナ情報】

第31週のヘルパンギーナの定点当たり報告数は、村山地区、庄内地区で警報レベルを上回りました。県平均と置賜地区の定点当たり報告数は引き続き警報レベルとなっています。

第31週 定点当たり報告数	県平均: 14.0人
村山地区: 7.0人	最上地区: 0.7人
置賜地区: 43.3人	庄内地区: 8.4人
【警報開始基準値: 6人 警報終息基準値: 2人】	

ヘルパンギーナとは

乳幼児を中心に夏季に流行する、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス感染症です。

【症状】

2～4日の潜伏期の後、突然の38～40℃の発熱が1～3日間続き、のどが赤くなり痛みを伴い、口の中に小さな水疱ができます。やがて水疱が破れて、浅い潰瘍ができます。発熱は2～4日間程度で解熱し、それにやや遅れて口腔内の症状も消失します。

【予防法】

咳などの飛沫感染や、便等の排泄物による接触感染で伝染します。特別な予防法はなく、感染者との密接な接触を避けること、うがいや手洗いをこまめに行うなどです。

また、症状が回復した後も、便中には2～4週間の長期にわたってウイルスが排出されるため、特にトイレやおむつの交換の後は念入りに手洗いや手指の消毒を励行することが大切です。

※参考URL

国立感染症研究所 ヘルパンギーナとは

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/515-herpangina.html>

【腸管出血性大腸菌感染症情報】

第31週に、腸管出血性大腸菌感染症が報告されています。例年夏季に多く発生しますので、今後も継続して注意が必要です。

感染者の内訳(平成28年第1週からの合計)

①地区別

村山地区	: 3名
最上地区	: 3名
置賜地区	: 6名
庄内地区	: 2名
計	14名

②型別

O血清型	ペロ毒素型	報告数
O26	VT1	3
O91	VT1	1
O145	VT2	1
O157	VT2	4
	VT1VT2	3
OUT	VT1	1
	VT1VT2	1
合計		14

ヘルパンギーナ発生状況(山形県)

